

となりの医療さん

歯の健診ない不思議

社会人になると、体の健康診断はするのに、歯科健診がないのはなぜでしょう。労働安全衛生法で年1回義務付けられている健診項目に、歯科健診は入っていないんです。じゃあ、歯科健診はしなくても大丈夫かと思ったら、そんなことはありません。注意が必要なのは、まず歯周病。05年の「歯科疾患実態調査」では、30歳以上の80%以上が歯周病という結果が出ました。症状がわかりにくいので知らぬ間に進行して歯を失うだけでなく、心臓病や糖

県歯科医師会産業歯科担当理事

田中和宏さん



76年、城西歯科大学(現明海大学歯学部)卒業。79年に橿原市に田中歯科医院を開業し、00年から県歯科医師会産業歯科担当理事。「労働衛生コンサルタント」として、事業者に安全衛生上のアドバイスや指導もしている。

尿病、妊娠中のトラブルなど全身疾患の原因にもなることがわかってきました。そして勤労者の関心が高いのが「口臭」。県歯科医師会のアンケートでは「自分の口臭が気になる人」が30・1%、「他人の口臭を気になる人」が77・2%。原因の約90%は口の中にあり、特に歯周病が大きく

かかっています。最近増えた海外赴任では、行った先の国で歯の疾患が出た大変困るということも多いようです。これは、自衛隊に所属している歯科医から聞いた話ですが、海外派遣中の隊員が急性の歯科症状を訴え、その隊員は急ぎよ、自衛隊機で帰国したとか(巡視

結局、勤労者の歯科疾患は個人の問題、つまり私傷病として扱われ、自己管理の範囲内であるという考え方が事業主側では支配的です。

側では支配的です。89年に始まった8020運動(80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという運動)は今年で20年。その間、80歳で20本以上の歯をもつ人の割合が7・0%から21・1%と約3倍に、また80歳で残っている自分の歯の平均本数は4・0本から8・9本と約2倍に増えました。しかし、残っている歯の平均本数は40代前半で27本、50代前半で24本、60代前半で21本、70代前半で15本と減少傾向です。リタイアして時間が出来てから歯の健康に取り組んでも手遅れです。「忙しい」「時間が無い」と放置し、急に痛くなって慌てて受診し、通院回数も治療費もか

さみ、歯も失うケースも多いので「若くして歯を大事にして」という患者が増える。歯科医側から受診しにくく、受診してからも「たのみに！」と

県内事業所でけた人にアンケートした95%以上の人が「歯の専門的な健康指導を口の健康維持に」

注長をとた

書誌した言葉を執筆し、11月26日(水)発行の奈良新聞に掲載されている。

「となりの医療さん」は、毎月1回、奈良新聞に掲載されている。

11月26日(水)発行の奈良新聞に掲載されている。

11月26日(水)発行の奈良新聞に掲載されている。